令和５年度第２回　北海道中山間地域等直接支払制度検討会（現地調査）
【概要】

幌加内町
（１）日　時　令和５年１０月１６日（月）13:10～13:30
（２）出席者　検討会５名（岡田様、近藤様、志村様、丸山様、山梨様）
集落協定代表２名、町３名、道協議会２名、
上川総合振興局３名、農政部農村設計課５名

［現地調査］幌加内広域集落（水田・緩傾斜地）

（集落のほ場にて）
○　集落の広域化を10年ほど前に行った。
○　シカ柵は農地の周囲に回しているところもある。シカが増えているので、これから別の対策も必要かもしれない。
○　非農業者14名は、景観作物の作付けの共同作業のため入ってもらっている。
○　転作田でのそば栽培もある。そばの作業は6月中から9月末くらいまで。コンバインで刈り取り。
○　機械の共同利用は10～20年前はやっていた。使いたい時期が重なることと機械の管理・維持が難しい。
○　傾斜地に配分され区画は１反から１～２町まであるが、掛かり増し経費分は中山間直払で補填されていると思っている。
○　個人配分額は個人毎にバラバラ。
○　計画や作業の進め方については、役員が集まって決めることが多い。

［意見交換会］

（担い手について）
○　そばを作りたい生産者が多く、耕作放棄地は幌加内町にはない状態である。今後においても予想としては、耕作放棄地はない。斡旋委員会で声掛けすると手を挙げる方がいて、うまくマッチングしている。幌加内町の地元人口も守りつつ、高齢化もなくす形でマッチングするのが課題であり、今後検討していかなければならない。

○　肥料の高騰、燃料が高く農産物の売上げを上げるためには、面積を広げるのが一番で、経費もそれなりにかかるが売上げも上げなければならないので年齢が高くても、手を挙げる。土地をそばに転換する動機については、一番は人手不足。圧倒的に水稲の方が手間もコストもかかる。その点そばは大きなトラクターがあればできる。そばか米かというとそばの方が伸びやすい。

（公民館活動について）
○　それぞれの集落にあり、新年会から始まり、春の地鎮祭、話し合いの場、敬老会等、年間を通し数回使っている。年に７～８回集まり、集落委員会などを開いている。

○　広域になると他の所の実情がわからない。近場のことはわかるが、小さな集落の方がわかる。８～９軒の小さな集落で、隣に似たような集落があって合わせるかというとそういう訳にはいかない。

（全体をとおして）

○　個人配分が９割近くなっていて、中山間支払が平場地帯の条件が良い所と中山間地との不利な所の格差を埋めるということで下支えしている補助金の位置づけであることを確認した。共同作業は、水稲関係で個人ではできない中山間地の水路の維持管理、皆で利用するような水田稲作の必要なインフラの維持管理は共同でしていかなければならない。

○　もう一つ公民館活動、コミュニティを維持するために、制度をある程度活用できているのかと思う。それがあることにより地域農業の将来の姿やいろんな話し合いがし易いということがあると思う。将来的には、そばの産地であるのでもっと派手に PR してもよい。

○　公民館活動、共同取組に対して遠慮する方が増えている社会現象かもしれない。どうクリアするかが今後の問題である。

（緩傾斜の水田）

（意見交換会）